

孫左衛門堰の保全管理について



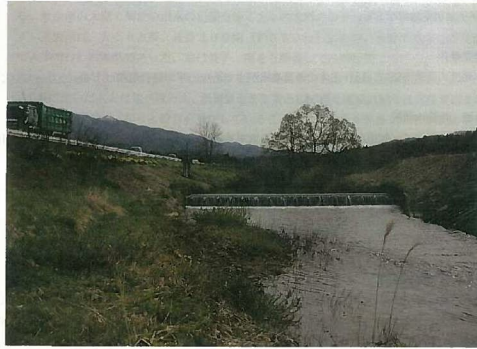
秋田市孫左衛門堰土地改良区
事務局長 鈴木英弘

1



2

孫左衛門堰の概要



秋田市孫左衛門堰土地改良区
(水土里ネット孫左衛門堰)

3

1) 土地改良区の沿革・由来

当土地改良区の起源は、古く文久2年（1862年）、今から151年前まで遡る。

当時、林業・製炭による森林濫伐等により干害常習地帯であった。

それを見かねた地域の酒麴製造を生業とする鎌田孫左衛門（寛政5年～明治元年）が、一念勃起して、壮大な事業を思い立ち、干害常習地帯である太平、柳田、赤沼、広面地区を救うためには、太平川の水を割いて流す水路の開削をするしかないとの決意するのである。

安政2年（1855）、翁すでに63歳のことである。地方に測量の術を知る者のなかった当時約7年をかけて踏査し、精密な測量・設計書を完成し、ついに起工するのである。

文久2年（1862）、70歳のときである。人生50年と言われた当時、頭の下がる思いである。数か所の大樋の架設や洪水の氾濫を防ぐ大小の水門の設置など作業は困難を極めた。中でもずい道掘削は、大小8カ所、延長300間（約550m）に及び、当時の粗末な道具を用い、全て人手で行われ過酷であった。翁は長子、孫をも動員して指揮監督に当たらせ、家事は一切顧みる暇がなかった2年3ヶ月間、元治元年（1864）6月ついに難工事は完成するのである。

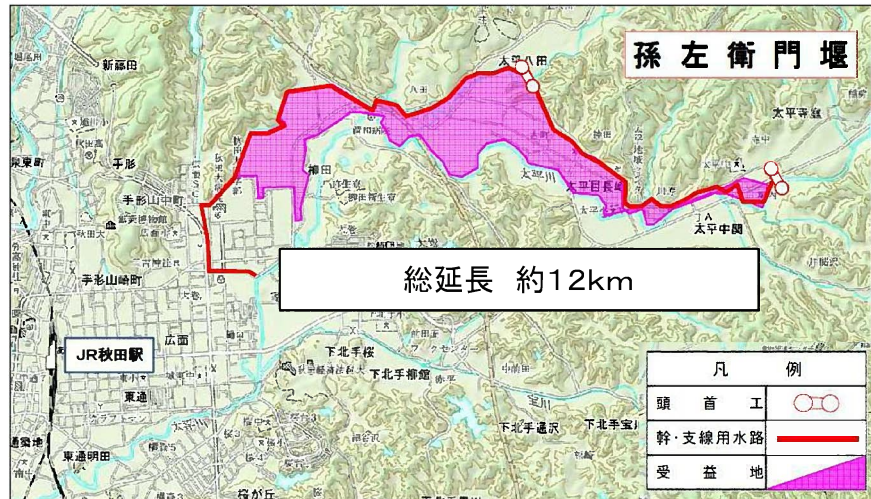
工事に注いだ人夫は延べ数万人、酒麴製造を生業として得た家産は傾くほど注ぎ込まれた。やがて翁は、水路がしっかりと役目を果たしていることを見届けた4年後、享年75歳で生涯を遂げた。

大正13年6月より、村民は孫左衛門翁の偉業をたたえる頌徳碑を村役場の前に建て、以後、9月に慰霊祭を行って遺徳をしのんでいる。

翁の名前を忘れることのないよう土地改良区の名前に孫左衛門堰と命名し、現在に至っている。

4

今から150年前 鎌田孫左衛門翁が開削



5

水源の堀内頭首工(太平中関)



6

幹線用水路(太平中関)



7

ずい道(太平目長崎)



8

幹線用水路(太平目長崎)



昭和48年当時



10

昭和48年当時

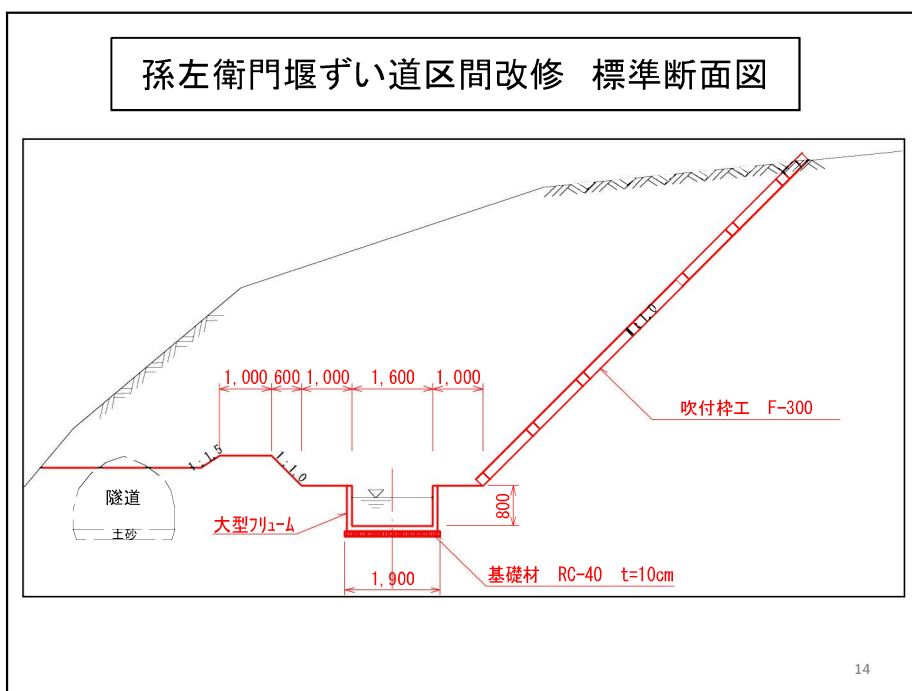
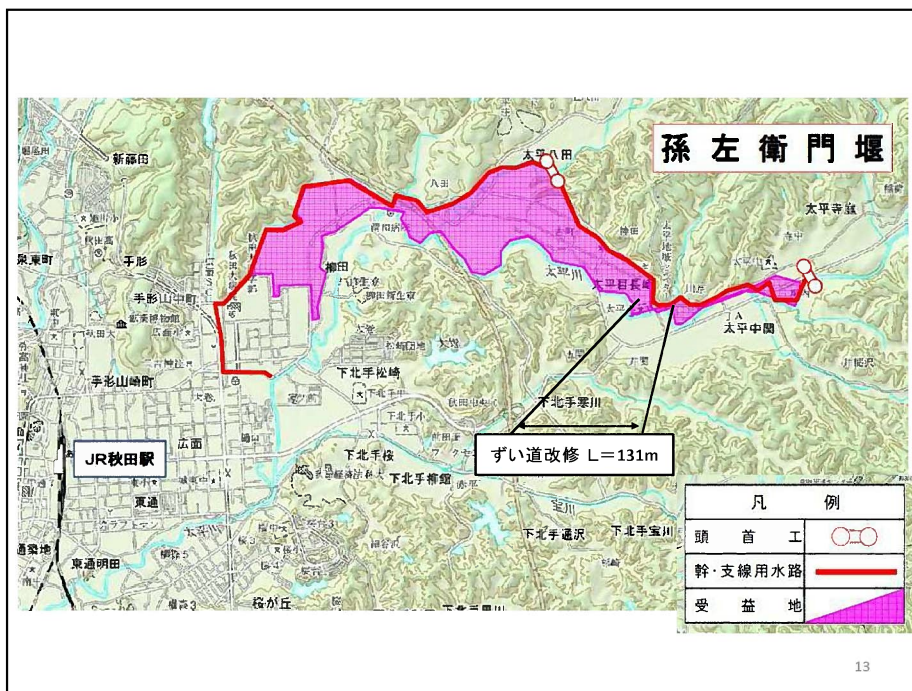


11

ずい道の崩落



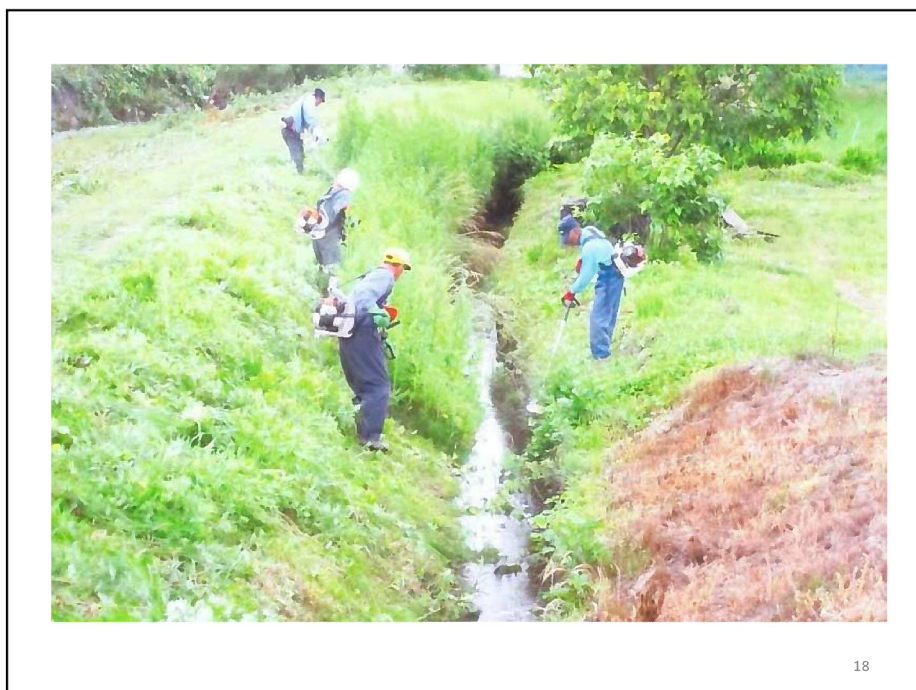
12

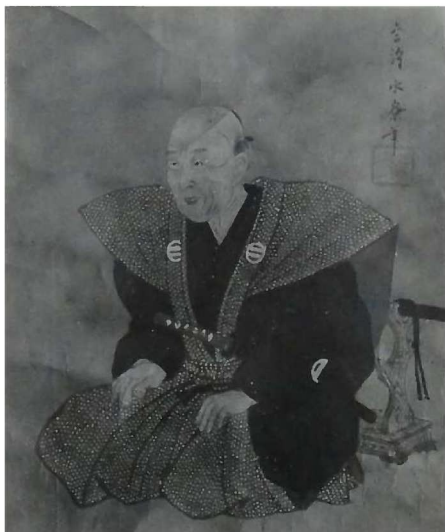


平成26年度より多面的機能支払交付金事業で保全管理

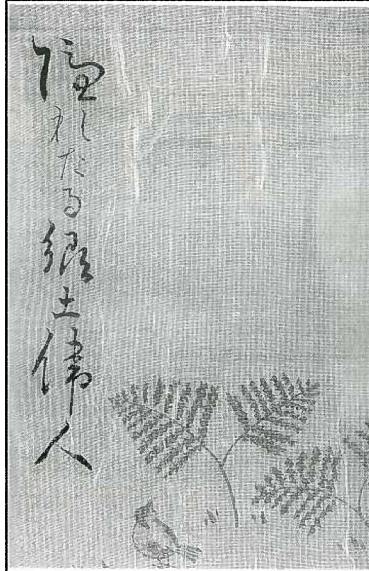


16





「隠れたる郷土偉人」(昭和15年秋田縣教育會発行)
 作者:須藤淹氏(太平小学校第11代校長)



74

野 田 氏 傳

治水開墾に終始一貫

鎌田 孫左衛門氏

須 藤 淹

鎌田孫左衛門氏は寛政五年三月二日阿比田村(今太平)に生る。幼くして父を失ひ、母の養育に育ち、後継母の出生と卒を同じふ。其母が溺死の遺人として世に傳はれたるに對し、孫左衛門氏亦溺死を以て一代に懸念せり、何ぞ其の功業の相似たるの場だし。太平村大字中ノ八間、祖傳所及び廣山田村の内務五、萬里一帯の水田三百餘町を掌し、しかも其の水田は世に傳はる平推にして一の堤防を築きたるの故を以て三時程く充分の灌水を得ることが出来ぬ。加ふるに水源遠きため、其の水は常に枯れ、毎々田舎の便をまひ一帯卒大の困難するときは萬里の水田は悉く干涸に墜するの狀態にあつた。孫左衛門氏亦祖傳の跡中に生るる一人たるを以て常に社會公衆の爲の思害を除かうと

21





23



24